

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 2875100873 | | |
| 法人名 | 株式会社 アクティブライフ | | |
| 事業所名 | アクティブライフ神戸 | | |
| 所在地 | 兵庫県神戸市中央区籠池通2丁目2-10 | | |
| 自己評価作成日 | 令和2年4月1日 | 評価結果市町村受理日 | 令和2年7月17日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/28/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|----------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社 H.R.コーポレーション | | |
| 所在地 | 兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224 | | |
| 訪問調査日 | 令和2年6月16日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣の商店街への買い物や、個人の好みに応じた少人数での外出を定期的に行っている。
『はちみつじかん』(館内アクティビティ)については、現在も好評のまま維持できており、ご利用者の個性・能力を十分に引き出し、集中して取り組まれている。また、30年度より健康運動トレーナーによる体操教室、個別体操をフロア単位で行い、一部のご利用者については身体能力の改善が見られている。また、音楽療法についても既存の集団での音楽療法だけでなく、個別の音楽療法(個人、少人数)も31年度より開始し、成果が見られている。これらの活動が活発になる中で、スタッフが行うアクティビティについても改善が見られており、日々ご利用者の力を生かした生活が送れている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高台の閑静な住宅街に立地し、各ユニットは明るくゆったりと広い快適な環境で、施設内の屋上・サロン・中庭等も活用されている。地域の店舗の利用・地域行事への参加・保育園児やボランティアの来訪等、利用者と地域の繋がりを大切にしている。「くすのきカフェ」「リフレッシュ教室」の開催等、地域貢献も継続している。アクティビティ専属スタッフによる「はちみつじかん」、音楽療法士・健康運動トレーナーによるプログラム、季節に合わせた食事イベント、フロア毎や合同での外出イベント、館内のイベント等、利用者が個々の状態に合わせて参加し楽しめる機会づくりに努めている。家族が参加するイベントも多く、アンケート・家族会等、家族の意見・要望の把握と反映に努めている。研修・委員会活動等を通して職員の資質向上に取り組み、定着もよい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|---|--|--|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および第三者評価結果

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事業所内と各フロアにGH運営理念を掲示している。企業理念を毎月朝礼で唱和しており、半期ごとの重点課題として各自目標に取り入れている。 | 企業理念・10の約束を事務所に掲示し、毎月の朝礼で唱和し、また、グループホーム運営理念を各フロアに掲示し共有を図っている。企業理念・マナー5指標を記載したカードを携帯し周知を図っている。グループホーム運営理念に、地域密着型サービスの意義が盛り込まれている。人事考課の中で、職員個々が理念の実践を目指した年間目標を立て、上期・下期の個別面談により目標管理を行うことを通して、理念の実践につなげるよう取り組んでいる。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の美容院やスーパー等を利用したり、神社の季節催事への参加や、近隣の保育園児との交流を行なっている。地域の消防団の方には消防訓練に協力して頂いている。 | スーパー・商店街・理美容院・飲食店等、利用者が地域の店舗を利用できるように外出支援している。梅まつり・夏越祭り・だんじり祭り等、地域行事に参加する機会も設けている。ボランティアによる演奏会や、保育園児とのちびっこランド交流会による交流もある。実習生・トライやるウィークの受け入れ、くすのきカフェの開催(月1回)、リフレッシュ教室や地域住民向けの認知症講座の開催協力等、地域貢献にも取り組んでいる。消防訓練に地域の消防団の参加があり、協力関係を築いている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 笑顔の窓口として地域住民からご相談を受けている。また「くすのきカフェ」を通して相談の機会を設けている。 | | |

アクティブライフ神戸

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み ryo | 2か月に1回の実施。施設代表者、GH管理者、リーダー、包括職員、民生委員、知見者、ご家族代表が参加し、GH運営に関する報告、ご意見を聞き、サービス向上に繋げている。 | 利用者・家族・地域住民代表(民生委員)・地域包括支援センター職員・知見者(他事業所職員)を構成メンバーとし、施設・事業所からも出席して、2ヶ月に1回開催している。会議では、利用者状況、職員状況、実施工事、行事予定、事故・ヒヤリハット事例、研修、設備等について報告している。行事については、写真資料を用いて、わかりやすく説明している。参加者と意見・情報交換を行い、民生委員や地域包括支援センター職員からの地域についての情報や、家族の意見・提案、他事業所の取り組み等を、運営やサービスに反映できるように取り組んでいる。議事録は、玄関にファイルを設置し公開している。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議の内容や事故報告等を決められた書式で市に報告し、事業所の状況を伝えている。3か月に一度開催される中央区のGH連絡会議に参加できるときは参加している。 | 報告書等の提出や相談・問い合わせ等を通して、市と連携を図っている。区職員も出席する区のグループホーム連絡会に参加し、意見・情報交換を行っている。運営推進会議への出席や、「リフレッシュ教室」・地域住民向けの認知症講座の開催協力を通して、地域包括支援センターと協力関係を築いている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 年に二回、全スタッフ対象に施設内研修を実施している。月一回行われる身体拘束適正化委員会においても、事例を通してセンサーマット等の検討を行なっている。 | 「身体拘束等の適正化のための指針」を整備し、身体拘束をしないケアを実践している。「身体拘束適正化委員会」を毎月開催し、各フロアの状況報告、今後の方針など、適正化に向けた検討を行い、フロアごとに議事録を回覧し全職員に周知を図っている。年間研修計画をもとに、身体拘束廃止についての研修を年2回実施し、複数回の開催と資料配布、研修報告書の提出により職員に周知を図っている。委員会・研修を通して、スピーチロックについても注意喚起している。エレベーターの使用には操作が必要であるが、利用者の希望があれば職員が対応し、閉塞感を感じないように配慮している。 | |

アクティブライフ神戸

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | (6) | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 年に二回、全スタッフ対象に施設内研修を実施している。不適切なケアの防止のため、マナー委員や朝礼等を通して、言葉遣いに気を付ける呼びかけを行なっている。 | 高齢者虐待防止についても、上記と同様の方法で、年2回研修を実施し、全職員に周知を図っている。研修やマナー委員会を通して、不適切な言葉遣いや対応の防止に向け意識向上に取り組んでいる。法人として、ストレスチェック、相談窓口設置、メンタルニュースの掲示、親睦会、リフレッシュ休暇等、職員のストレス等がケアに影響しないように、取り組んでいる。事業所としても、話しやすい職場環境づくりに努め、定期的・随時に個別面談を行っている。 | |
| 8 | (7) | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 必要なお家族へは後見制度について説明し、窓口を紹介している。 | 成年後見制度を活用している利用者があり、報告や書類の提供など、事業所として制度利用を支援している。今後も、制度利用の必要性や家族等から相談があれば、リーガルサポートセンター等関係機関と連携をとり支援する体制がある。 | 権利擁護に関する知識について、全ての職員が一定の知識を得られる機会作りが望まれます。また、研修の実施記録については、実施状況や研修内容が明確になる工夫が望まれます。 |
| 9 | (8) | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 見学時の説明、契約時は重説を基本に読み合わせと説明を必ず実施。制度の変更点などはご家族に同意を得ている。 | 見学時にパンフレット等を用いて費用やサービスの概要等を説明し、必要に応じて契約前に自宅等を訪問している。契約時には、契約書・重要事項説明書・指針・同意書等に沿って説明し同意を得ている。また、詳細な確認事項については、「ご利用のしおり」を用いて、具体的にわかりやすく説明する工夫を行っている。契約改定時は、変更内容を明確にした書面で同意を得る等、改正内容に応じて適切に対応している。 | |

アクティブライフ神戸

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 10 | (9) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 毎年のサービスアンケートや家族会、ケアプランの更新時、運営推進会議等でご意見を伺うと共に、内容議事録を公開している。ご家族来館時にはお声掛けし、ご意見を反映させるようにしている。 | 面会時や電話の際の聴き取り、年1回の家族アンケートの実施、年2回の家族会の開催、意見箱の設置など、家族の意見や要望の把握に積極的に取り組んでいる。毎月の介護レターで写真を交えて生活の様子を伝え、行事への参加を呼び掛けるなど、意見・要望が表しやすいように努めている。運営推進会議に利用者・家族の参加があり、外部者に意見を表す機会も設けている。申し送りノート・介護記録・フロア会議等で共有し、把握した意見・要望を反映するように取り組んでいる。 | |
| 11 | (10) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 年2回のスタッフ面談や運営会議において機会を設けている。年一回、改善報告を行う機会を設けている。 | 各フロア会議を月1回、各種委員会・ミーティングを定期的実施し、職員の意見・提案を運営やサービスに反映している。施設長・管理者・フロアリーダーが、定期的年2回、また、随時にも個人面談を行い、個別に職員の意見・提案を聴く機会を設けている。法人内で、職員(個人やグループ)が意見・提案をもとに取り組んだ成果を、「改善報告」として報告する機会を年1回設けている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 毎月安全衛生委員会を開催し、産業医がフロアを巡回し改善を要する場合は助言をもらっている。勤務時間や就業状態について、管理者のチェックや年二回のスタッフ面談後の昇給、昇進などを行なっている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 本社研修センターでの介護研修、施設内のテーマ別研修の実施、外部研修へ参加している。 | | |

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 他のGHの運営推進会議や、中央区GH連絡会の意見交換会に参加。自社の他施設GH管理者との定期的な会議で、サービス向上のための話し合いの機会を設けている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前面談、家庭訪問でご本人とご家族の要望を伺っている。面談記録を残し、スタッフに回覧することで情報共有している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居申し込みから入居時まで、常にご相談やご要望を伺っている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | アセスメントを元にフロアミーティングを行い、できるだけご本人やご家族の望む生活を送って頂けるよう、ケアプランを作成し、支援している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 残存機能を維持した生活を送ることで自信を持っていただき、役割や存在価値を見いだせるよう支援している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | イベント等に積極的に参加をしていただけるように働きかけている。ケアプランを通してご家族に助けて頂ける部分については一緒にケアを行なっている。 | | |

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 20 | (11) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 思い出の場所への外出や自由な面談時間、ご家族参加のアクティビティ等の機会を設けている。 | 馴染みの場所や人について、入居前に把握した情報は「入居前面談シート」に、入居後に把握した情報は「ケース記録」に記録して共有を図っている。家族・友人・知人等の来訪があれば、居室や館内の希望の場所でゆっくり過ごせるように配慮している。合同イベントやアクティビティが、施設内での馴染みの関係継続の機会にもなっている。商店街・百貨店・美容院・ポートタワー等、馴染みの場所への外出希望があれば、個別やグループで外出できるように支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | フロアごとのイベントや他のフロアとの合同イベント、施設内アクティビティ(はちみつじかん)を通して交流を深めている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去後写真をアルバムにして送ったり、入院中の方にはお見舞いに伺っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (12) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の介護の過程で見られる言動やスタッフがご本人の状況を記録に残し、ミーティングで共有し、ケアプラン策定に繋げるようにしている。 | 入居前に把握した思いや意向は「入居前面談シート」に記録し、入居後に把握した思いや意向はケース記録やフロア会議等で共有し、介護計画や支援に反映できるように取り組んでいる。把握が困難な利用者については、表情や反応から汲みと取ったり、家族の意見や情報を参考にしたり、以前の情報を参考にする等、本人本位に検討できるように努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 担当ケアマネージャーや相談員などの入居前に関わった介護サービス事業所へのヒヤリング、ご本人やご家族の話を聞き、把握に努めている。 | | |

アクティブライフ神戸

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の状況を記録し、申し送り、ミーティング等で共有している。看護師や主治医との連携により、健康状態の把握に努めている。 | | |
| 26 | (13) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ケアプラン更新前にご本人、ご家族の意向を伺い、プランを作成する。その後ミーティングで提供内容の確認と実施の徹底を行う。 | 入居前の面談情報「生活状況を把握するためのアセスメントシート」を基に暫定の介護計画を作成し、以降は基本的には6ヶ月毎に介護計画の更新を行っている。介護計画表をファイルに入れて職員間で共有し、「ケース記録」の項目欄も活用しながら、介護計画の具体的なサービス内容と整合性ある実施記録が残せるように取り組んでいる。毎月、モニタリングをもとに、フロア会議で支援内容・課題等を検討している。介護計画を見直す際は、再アセスメントと毎月のモニタリングを反映させ、担当者会議を経て、本人・家族の意向に沿った介護計画を作成している。 | 入居前に得た生活歴・生活習慣・趣味嗜好等の情報に、入居後に得た情報を追記したり更新することにより職員間で共有し、個別支援に更に活かせる工夫を期待します。担当者会議前に聴き取った利用者・家族の意向や要望を、議事録に記録してはどうか。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 策定したケアプランに基づいた実践について記録を残している。ご本人の心身の状況が変化した場合は日々のケアやケアプランの見直しを行なっている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 心身の変化に応じた福祉用具の選定を行なっている。アクティビティ専任スタッフや健康運動トレーナー、音楽療法士による、レベルに応じたアクティビティ・体操・音楽療法の提供を行なっている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 各種ボランティアによる演奏会や、地元消防団の協力による消防訓練、近隣商店への買い物、美容院や飲食店の利用、馴染みの場所への外出等を行なっている。 | | |

アクティブライフ神戸

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 30 | (14) | <p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p> | <p>協力医への定期受診、往診、定期健診を受けている。常に医療が必要になった場合にはご家族と相談の上、往診専門医への切り替えを行なっている。</p> | <p>入居時にかかりつけ医を確認し、利用者・家族の希望に沿った受診を支援している。内科は定期的に、歯科・皮膚科は必要時に往診が受けられる体制がある。協力医療機関への通院は職員が同行し、個別のかかりつけ医への通院は家族に同行を依頼し、日頃のバイタル経過記録等で情報提供している。事業所の看護師が医師と連携して、健康管理・情報提供等を行っている。受診結果や医師からの指示事項は「ケース記録」内の受診記録で管理共有し、家族には電話や毎月のお便りで報告している。</p> | |
| 31 | | <p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p> | <p>看護師と常に連絡を取り合い、必要時には協力医へつないだり、健康状態の観察・相談も適宜行なっている。</p> | | |
| 32 | (15) | <p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p> | <p>入院時には医療機関へサマリーの提供を行なっている。退院時には主治医や入院先看護師、介護士、施設看護師がカンファレンスにおいて受け入れ準備を行うなど、密に連絡をするようにしている。</p> | <p>入院時はサマリー等で情報提供を行っている。入院中は定期的に面会に行き、利用者の不安の軽減を図り、家族や病院関係者から状態をヒヤリングしたり、医療連携室と情報交換しながら早期の退院に向け支援している。退院前のカンファレンスにはフロアリーダーや看護師が参加し、退院時はサマリーで情報提供を受け、退院後の介護支援に活かしている。入院中の情報は随時「ケース記録」に残し、職員間で共有している。</p> | |

アクティブライフ神戸

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 33 | (16) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居契約時に重度化指針の説明を行なっている。協力医により看取り期が近いと判断された場合、ターミナルケアについてカンファレンスを行い、ご家族の要望を伺っている。 | 契約時に、「重度化した場合における対応並びに看取り介護の指針に対するの同意書」に沿って説明し、同意を得ている。利用者・家族の希望に沿って、事業所として可能な限り終末期の支援を行う方針である。終末期を迎えた段階で、主治医から家族に現状説明を行い、支援方針を話し合い看取り計画書を作成している。家族の意向を確認しながら繰り返し話し合い、医療関係者を含めチームで支援に取り組んでいる。年間研修で「看取り」研修を行い、職員のメンタルサポートを行っている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 誤嚥時の対応方法やAED研修を実施。緊急時の行動手順をスタッフルームに掲示している。 | | |
| 35 | (17) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回の消防訓練には地域の消防団にも参加いただいている。その他災害メール訓練も実施している。ハザードマップの掲示を行なっている。 | 年2回、昼間・夜間想定で総合訓練を実施している。利用者・職員・地域の消防団、時には管理会社も参加し、日中想定はデイサービスと合同で行っている。訓練記録は議事録に残し、参加できなかった職員には「避難手順・流れ」の資料回覧で周知を図っている。また、年2回地震メール訓練を実施し、災害時の職員間の連絡の強化を図っている。水・食料品を3日分程度と必要な備品等を、施設共同で備蓄し、総務が管理している。 | |

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (18) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 施設全体のマナー推進者と各フロアにマナー担当者があり、月に1回ミーティングを開き、目標を立てる等マナーの啓発に努めている。 | 法人の取り組みとしてマナー委員会を設置し、施設のマナー推進者・各フロアのマナー担当者が、2ヶ月毎のマナー委員会に参加し、振り返りや検討を行っている。目標の設定・啓発ポスターの掲示等、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉遣いや対応について、職員の意識向上に努めている。個人ファイル類は鍵のかかる書庫に保管し、ブログへの写真掲載については、個人が特定できないよう工夫している。入職時に守秘義務に関する誓約書を交わしている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | ご利用者が思いを表出しやすい雰囲気や、信頼関係が持てるコミュニケーションを心掛けている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | ご自宅で暮らすような目線で、その方がその日をどのように過ごすのか、自己決定できる支援をする。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 毎月理美容業者によるヘアサロンや外出時に好みの服を購入して頂く等、ご自身のおしゃれを楽しまれている。施設外のヘアサロンを利用されている方もいらっしゃる。 | | |

アクティブライフ神戸

| 自己 | 者 | 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|---|------|--|---|---|-------------------|
| | | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | | (19) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 月一回の食事ミーティングで厨房と打ち合わせを行い、要望を伝えたり、イベント食の企画を行なっている。できる方には食事準備、片づけやフロアの調理イベントの手伝いをお願いしている。 | 施設の厨房で調理を行い、各フロアで炊飯・温め・盛り付けを行い、可能な利用者は職員と一緒に準備や片付けに参加できるように支援している。毎月の食事ミーティングで、厨房スタッフと一緒に食事内容や利用者の嗜好・希望を話し合い、献立に反映させている。食事イベントに積極的に取り組み、各フロアで、利用者の希望食を利用者参加で手作りする調理企画やおやつ手作り会を行っている。また、合同企画で、寿司キャラバン・粉もの会・餅つき・鰻やさんまの炭火焼き会・中庭でのピクニックやカフェ・お誕生日会・家族会等、季節やイベントに合わせた食事会が多数あり、「食」を楽しむ機会を数多く設けている。 | |
| 41 | | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 嚥下や咀嚼状態に合わせた食事形態、カロリーなど摂取制限がある方への食事提供など、厨房と相談して提供している。水分量についてはチェックを行い、必要な水分量を摂取できるよう工夫している。 | | |
| 42 | | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、その方の状態に合わせた口腔ケアを実施している。必要であれば歯科受診で対応している。 | | |
| 43 | | (20) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | その方の排泄パターンに添ったトイレ誘導を行なっている。排泄時には量、状態、匂いなどを記録し、状況の確認を行なっている。 | 排泄チェック表で利用者個々の排泄状況やパターンを把握し、座位保持が可能であれば、日中は基本的にトイレ誘導の支援を行っている。毎月のフロア会議で利用者個々の介助方法や排泄用品を検討し、必要時は随時介護内容の見直しを行いながら、自立に向け適切な支援に努めている。各居室にトイレが設置されており、誘導時の声掛けにも配慮し、プライバシーや羞恥心に配慮した支援に努めている。 | |

アクティブライフ神戸

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 日頃から便秘予防も兼ねて水分量や運動等に留意しているが、それでも便秘になる場合は協力医や医師と相談し、下剤を適切に使用している。 | | |
| 45 | (21) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 出来るだけ本人の希望に沿うよう、時間帯等も合わせて声掛けを行い適宜対応している。季節に合わせた菖蒲湯や柚子湯、市販の入浴剤などで気分転換して頂いている。 | 隔日に週3回程度の、日中の入浴を基本としているが、利用者の希望や体力に合わせて、頻度の調整や日時の変更等、柔軟に対応している。個浴にリフトが整備され、身体状況に応じて、リフト浴・シャワー浴・清拭を採り入れながら個々に沿った支援を行っている。ゆず湯・菖蒲湯・様々な入浴剤で楽しんだり、フロア企画で温泉の日を設け、温泉ポスター等で温泉の雰囲気演出する等、入浴が楽しめる工夫も行っている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中傾眠がみられる方についてはその方の状態によって居室で休んで頂く等、対応を行なっている。昼夜逆転されている場合は日中に外気浴を行う等、規則正しい生活習慣の見直しを行なっている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬局からの薬受けや薬の内容変更は看護師が確認を行い、介護職に伝えている。服薬時は日付、量、名前等確認を行い、服薬後は記録を残している。服薬時状況の変化があれば、ただちに看護師、医師へ報告を行なっている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 洗濯物干しや食事準備、食器洗い、台拭きなど手伝って頂いたり、趣味や好きな食べ物、飲み物、テレビ、歌などや、外気浴等個々に合わせて支援している。馴染みの場所へ外出を企画している。 | | |

アクティブライフ神戸

| 自己 | 者 | 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | | |
|----|---|------|--|--|--|-------------------|--|
| | | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 49 | | (22) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 庭や屋上での外気浴や近隣への買い物、散歩など日常的に行なっている。車を使っの外出イベントやご家族と一緒に参加できるイベント等も企画している。 | 日常的には、利用者個々の希望に沿って、近隣への買い物・散歩・理美容等への外出を支援している。梅まつり・夏越祭り・だんじり祭り等、地域行事にも出かけている。各フロアの企画や合同企画で、四季折々の花の鑑賞・紅葉鑑賞・水族館・動物園・植物園・展示会・海岸・淡路島など、家族にも参加を呼びかけ、外出の機会を数多く設けている。介護度の高い利用者も、ADLや体力に合わせて外出できるよう取り組んでいる。花火大会・月見会など、屋上や中庭を活用した戸外で楽しめるイベントも多数実施している。 | | |
| 50 | | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金を持たないと安心できないご利用者については持っていたい。 | | | |
| 51 | | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 特に制限は行なっていない。電話で話したいと希望があれば対応している。居室に電話設置も可能。 | | | |
| 52 | | (23) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室ごとに表札をかけ、共用空間には季節の装飾、音楽を流したり、適切な室温、温度の調整のために室温度計をリビング・ダイニングにかけて管理している。 | 各フロアのリビングは広く、多くの窓からの自然光で明るい。テーブル席とソファ、多様な椅子を配置して利用者が思い思いに過ごせる工夫や、空気清浄、温度・湿度、遮光にも配慮した環境づくりに努めている。利用者がはちみつ時間に作成した季節に合わせた作品・習字・写真等が多数飾られ、楽しく温かみを感じられる。キッチンが併設されて家庭的な雰囲気があり、利用者も個々の状況に応じて家事に参加し生活感が感じられる。リビングに繋がる廊下は直線で、動線が広く、手すりも設置され、リハビリに励む利用者も見られる。景色が一望できる屋上や、大樹・木々・花々で彩られた中庭も外気浴が楽しめる憩いの場として活用されている。 | | |

アクティブライフ神戸

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビング、ダイニングだけでなく廊下などにも椅子を配置したり、サロンや庭でもくつろげるようにしている。 | | |
| 54 | (24) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居前から馴染みの絵画や家具を置いたり、生活用品にも使い慣れたものを持ってきていただくようにしている。 | 居室には洗面台・ベッド・クローゼット・小テーブルが設置されている。利用者個々が、寝具や家具類、電化製品、家族写真や人形、食器類など、使い慣れた馴染みのものや好みのものが持ち込まれている。利用者個々の身体状況に合わせて家具の配置を変更する等安全面も考慮し、居室担当職員と家族が連絡を取り合いながら居心地良く過ごせる環境づくりに努めている。各居室の表札は、入居時に好みの色やデザインを選んでもらい掲示している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室の鍵を希望される方については鍵をお渡ししている。表札を掲げることで居室を認識して頂く。 | | |